横須賀市自然・人文博物館
リニューアル基本計画

― 概要版 ―

令和7年（2025年）10月

横須賀市教育委員会

1. 博物館の現状と課題

昭和45年(1970年)の自然博物館と昭和58年(1983年)の人文博物館の開館以降、大規模なリニューアルを行っていないため、展示内容を分かりやすく来館者に伝えられない、適切な資料保存が困難などの課題が生じています。そこで、リニューアルを進めるにあたり、庁内や来館者から意見を求め、博物館の現状と課題を分析しました。

事業内容	現状と課題のポイント
資料収集・保管	①保管している資料の活用強化　②資料室の容積の不足　③資料のデジタル・アーカイブ化の推進
調査研究	①地域の自然や歴史を伝える場としての役割強化　②学芸員の調査研究成果の発信強化　③近現代分野の研究不足
展示	①資料の陳列を主体とした古い展示手法　②順路が分かりづらい　③展示の更新が困難　④体験型展示や映像展示の不足　⑤特別展示室の面積や設備が不十分　⑥誘客につながる目玉展示不足　⑦展示ガイドの要望
教育普及	①さまざまな団体への対応の効率化が必要　②参加型の体験イベントやワークショップの充実の要望
施設	①来館者用のエレベーターがない　②バリアフリー設備の充実やトイレ設備の改善　③博物館の入口が分かりづらい　④博物館の外観が目立たない
その他	①駅から博物館までの動線が分かりづらい　②地域連携や文化観光の強化

デジタル・アーカイブ：写真や映像、文書などをコンピュータで見られる形にして、長く残すこと。
文化観光：その土地の歴史や伝統、芸術などを楽しむための旅や体験のこと。

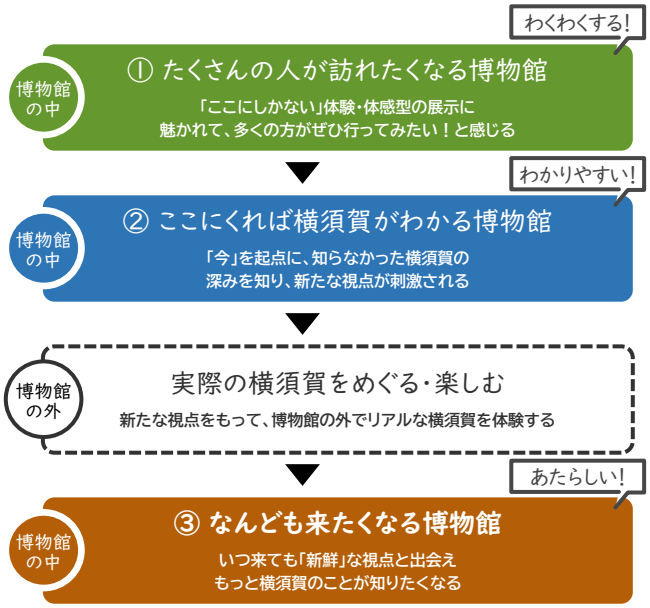
2. リニューアルの方向性

■ コンセプト

地域学習と文化観光の核となるミュージアムへ！

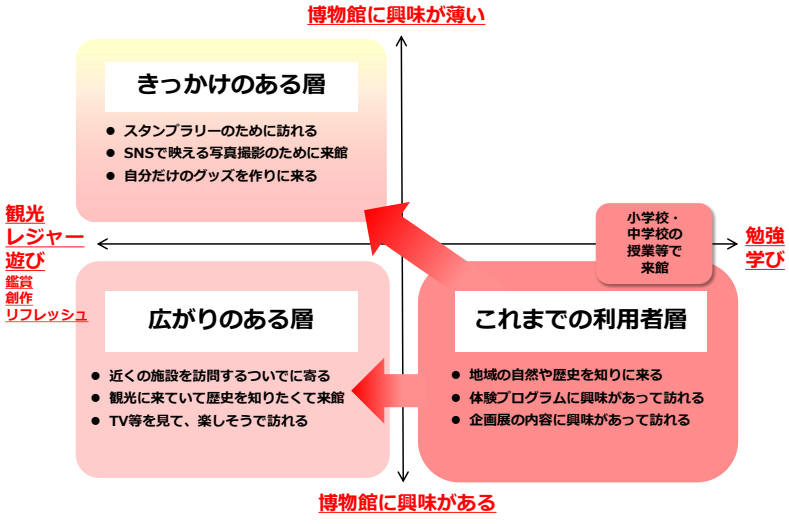
■ 基本方針

博物館を地域学習の拠点として、また文化観光の中心として位置づけ、地域学習と文化観光の好循環を生み出すリニューアルを行います。



■ ターゲット

これまでの来館者層だけでなく、より多様な来館者に来ていただくきっかけを作り、リピーターとなって再び訪れていただく好循環を創出します。



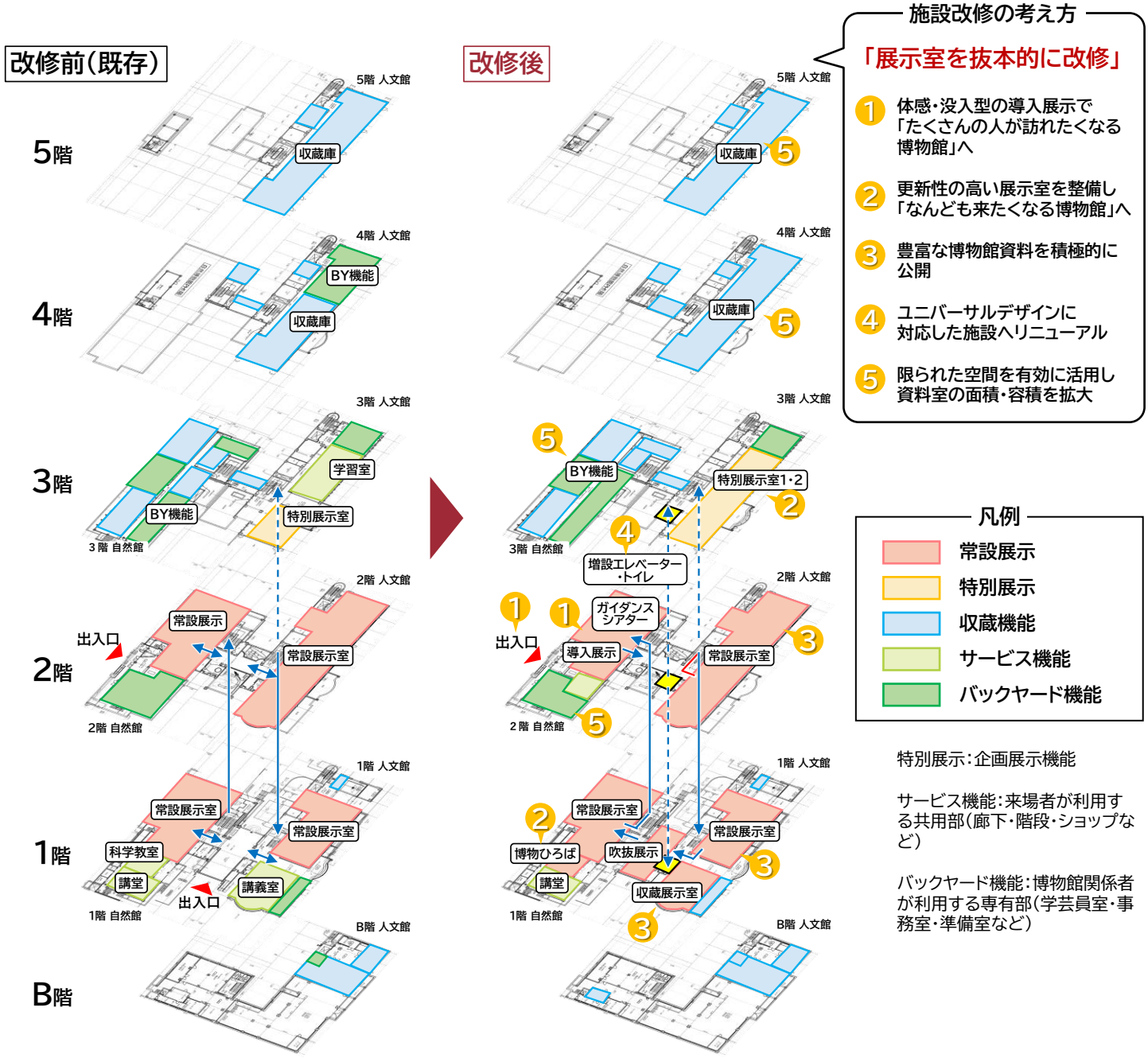
3. 事業活動計画

リニューアル及びそれ以降の事業活動計画の方針を、以下のように整理しました。

事業内容	方　　針
資料収集・保管	①収集する資料の方向性の明確化　②資料室の容積不足の解消　③デジタル・アーカイブ化の推進
調 査 研 究	①リニューアルに向けた研究の強化　②調査研究成果の発信強化
展　　示	①魅力ある展示作り　②展示の更新頻度の向上と最新の研究成果の反映
教 育 普 及	①参加型の体験イベントやワークショップの充実・効率化　②博学連携の強化 ③関連機関との連携による教育活動の拡大　④デジタル・アーカイブの公開
施　　設	①館内のバリアフリー化と設備改善の強化　②休憩スペースの増設　③3階ラウンジの有効活用
そ の 他	①地域連携や文化観光の強化　②「よこすかルートミュージアム」の役割強化

よこすかルートミュージアム：横須賀市では、横須賀に点在する歴史や文化、自然などのスポットを「ルート」でつなぐことで市内全体を大きな「ミュージアム」として捉える、「よこすかルートミュージアム」を推進しています。

4. 施設改修計画



特別展示：企画展示機能

サービス機能：来場者が利用する共用部（廊下・階段・ショップなど）

バックヤード機能：博物館関係者が利用する専有部（学芸員室・事務室・準備室など）

5. 展示リニューアル計画

博物館への興味関心が薄い方や、来館したことのない方も想定しながら、ワクワクとともに感動する展示や、理解しやすい展示、何度来ても楽しめる展示により全体を構成していきます。

ワクワクする！
興味関心をかき立てる、
体験・体感型の目玉展示

わかりやすい！
歴史・文化、自然をさまざまな手法で
わかりやすく伝える展示

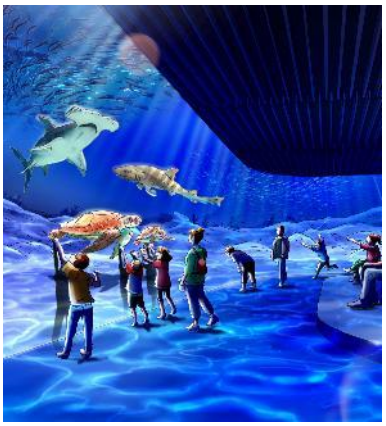
あたらしい！
来るたびに新鮮なテーマや
資料と出会える展示

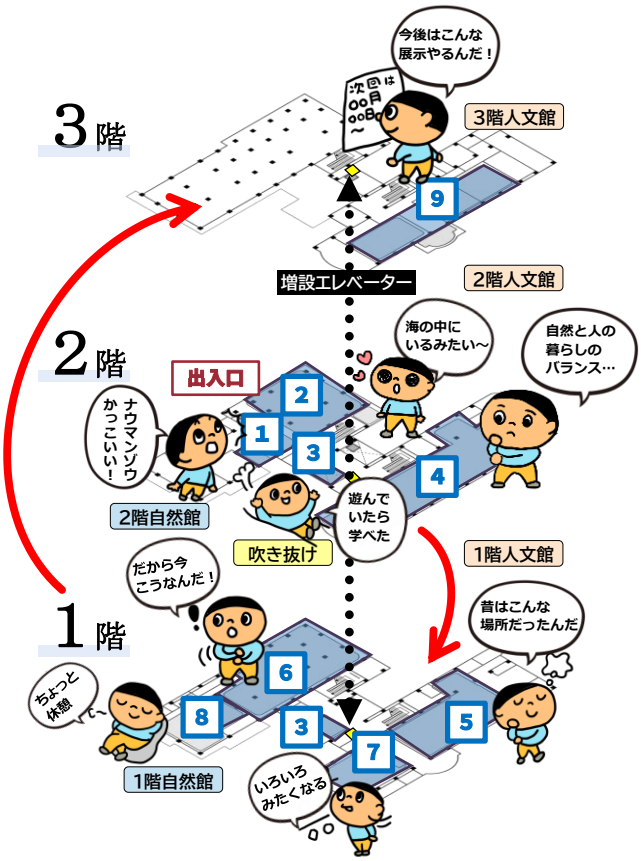
ワクワクする　わかりやすい

1 横須賀ワンダーゲート

ワクワクする　わかりやすい

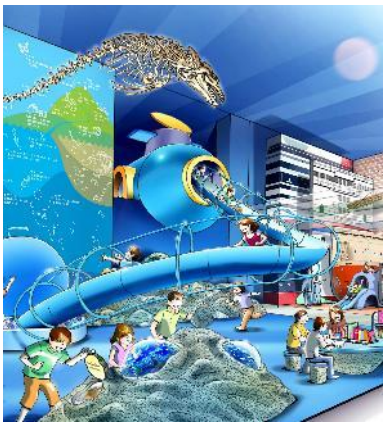
2 横須賀ダイナミック・シアター





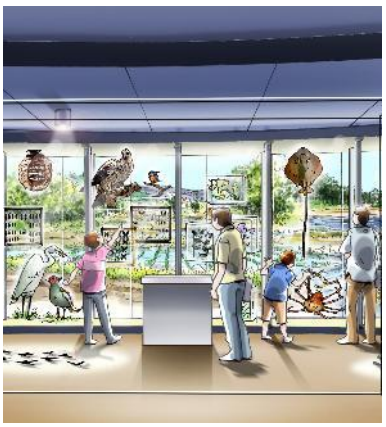
ワクワクする　わかりやすい

3 オーシャン・アトリウム



わかりやすい　あたらしい

4 三浦半島の自然と暮らし



わかりやすい　あたらしい

5 横須賀のあけぼの

わかりやすい　あたらしい

6 激動の横須賀

あたらしい

7 収蔵展示室

わかりやすい　あたらしい

8 博物ひろば

わかりやすい　あたらしい

9 特別展示室

1 横須賀ワンダーゲート

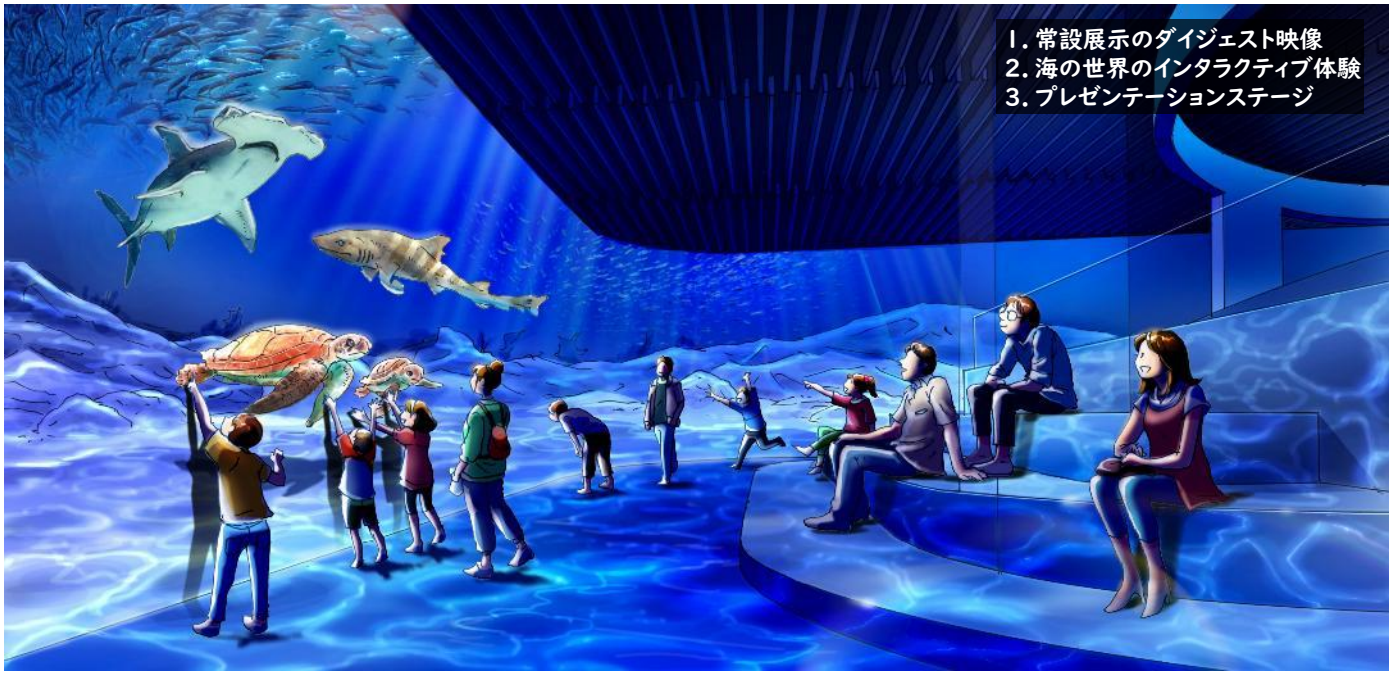
ナウマンゾウが大集合して来館者を出迎えるエントランス展示

横須賀市が誇る貴重な資料であるナウマンゾウをエントランスで紹介します。これまでに全国で復元された全4体の骨格標本を一堂に集め、大きさや雌雄の違いを比較できる形で展示し、動くナウマンゾウ模型による演出で来館者に驚きと期待感を提供します。横須賀でナウマンゾウと同時代に生きた絶滅動物ヤベオオツノジカなどの骨格標本も展示します。

2 横須賀ダイナミック・シアター

ミュージアムの世界に没入する体感型の映像シアター

”人と自然をめぐるダイナミズム”をテーマに、横須賀を知る常設展示のダイジェストを投影します。映像は床・壁の全面に映像を投影して、映像の世界に入り込むような演出を行います。座って観覧できる段状の席を設け、映像を使った講座やガイダンスにも使用できる場とします。



インタラクティブ：双方向のやりとりができること。利用者の操作に応じて内容や反応が変わる仕組み。

3 オーシャン・アトリウム

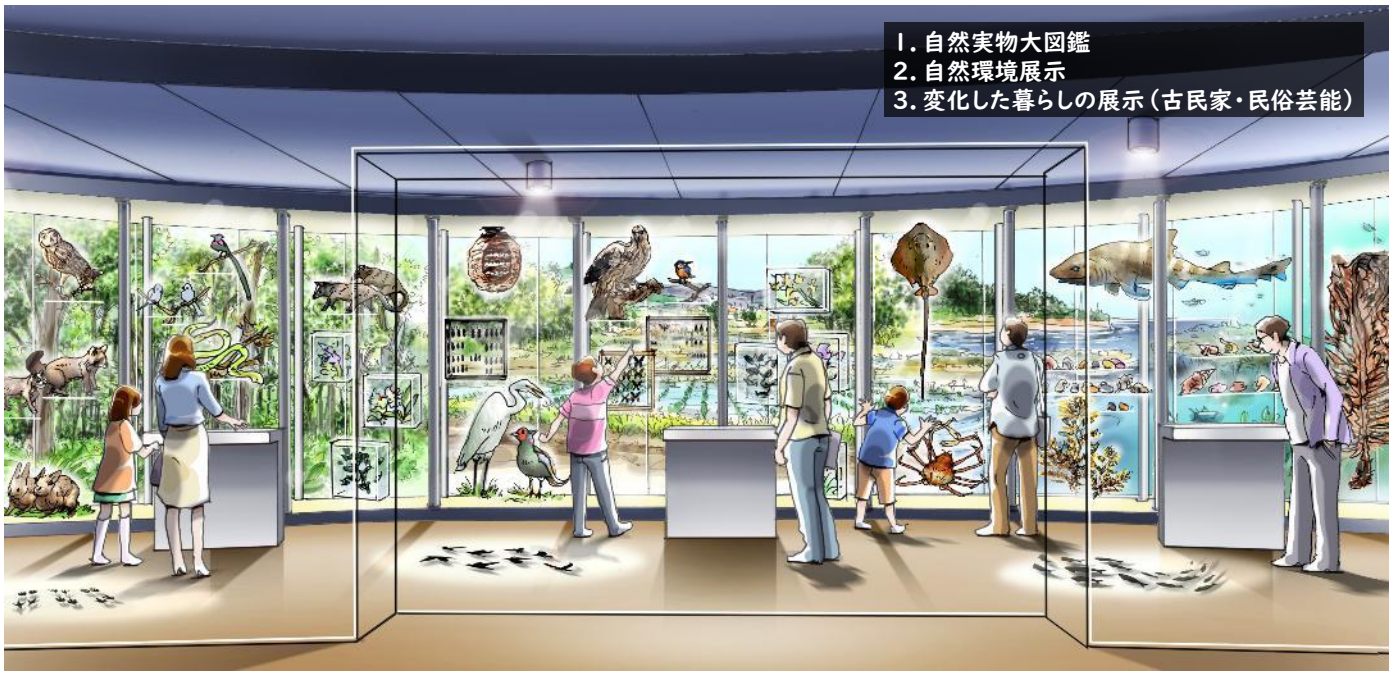
三浦半島の海と船を遊びながら探検できる体験空間

潜水艦に乗り込んで大きなスライダーから海の世界を巡ったり、さまざまな船の中を探検したりしながら、三浦半島の人や自然のおもしろさに触れられる学びの吹き抜け空間（アトリウム）。1～2階の吹き抜けを活用してダイナミックにスライダーと展示を展開します。館内を巡る際の休憩スポットとしても利用できます。

4 三浦半島の自然と暮らし

豊富な実物資料をもとに、自然と人の関係性を考える展示室

自然と、その中で営まれてきた人々の暮らしとの関係性について目を向ける展示室。地域に現存する自然の多様性や民俗・文化との調和に触れ、季節・時代による移ろいをたどりながら、自分なりの自然と暮らしの在り方を考えます。また、実際に地域に足を運んで自然と暮らしに触れてみたくなるきっかけを提供します。



5　横須賀のあけぼの　～大地の誕生から黒船来航前夜まで～

黒船来航前夜までの横須賀の姿を解き明かす展示室

三浦半島の地質時代から、先史時代、古代、中世、近世までを扱う。「三浦半島のはじまりシアター」では、黒船来航までの大きな時代の流れと特徴を伝えます。「大地と人の成り立ち」では、地球科学資料や考古資料と向き合いながら、今とは異なる当時の環境や人々の生活の様子を解き明かしていきます。

6　激動の横須賀　～黒船来航から現在まで～

現在の日本と横須賀に大きな影響を与えた近現代史をひもとく展示室

ペリーの黒船来航以降、横須賀がどのように発展してきたかを、主な出来事や近代化と都市化の流れ、街の変遷等をひもときながら、「横須賀が日本の近代化の起点であった」「今の横須賀につながっている」ということをジオラマや映像を組合せながら、分かりやすく伝えます。

7 収蔵展示室

収蔵資料の魅力や、博物館の重要な機能を伝えるバックヤード見学スペース

膨大な資料を適切に保管する資料室の様子を外から見学することができ、さらに学芸員が厳選した収蔵資料をガラス越しに近くで見ることができます。バックヤードの活動展示を通して、博物館における収集・保存の重要性についての理解を深めます。

8 博物ひろば

団体受入・探究学習・休息などに使えるフレキシブルスペース

団体利用での昼食場所、講演会での活用、日常的な学習場所、休憩場所、おしゃべりサロンなどの多目的スペースを設けます。触れる展示や横須賀の紹介映像なども配置します。

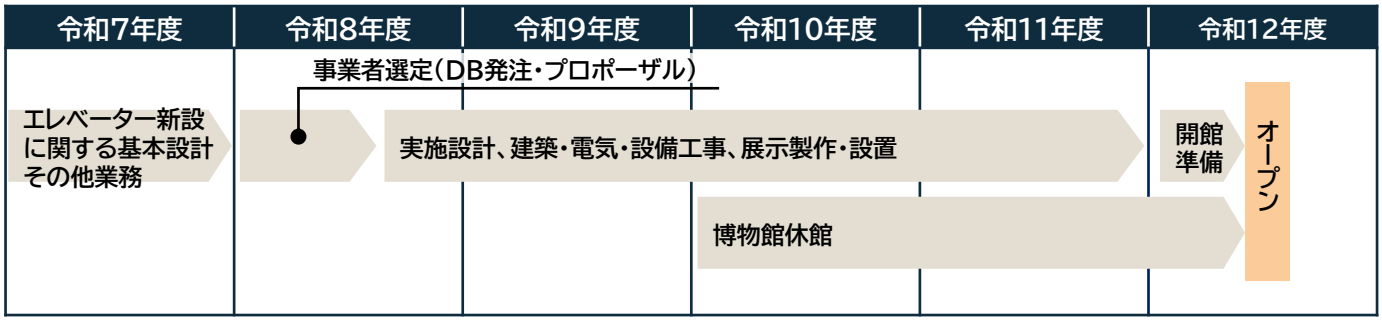
9 特別展示室

多様なテーマの展示を開催できる拡張可能な展示室

特別展示室は柔軟な面積調整が可能で、展示室を2つに分けた中小規模な展示から大規模な巡回展まで対応します。収蔵資料を用いた展示や、話題のテーマ・学芸員の研究成果を扱った特別展示などを行います。

6. 今後について

整備スケジュール（今後の整備スケジュールは、以下のとおりですが、状況に応じて変更する可能性もあります。）



お問い合わせ先
横須賀市自然・人文博物館
住所　〒238-0016　横須賀市深田台95番地
電話　046-824-3688（代表）FAX046-824-3658
https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp